

間の中で、より原始的な恐竜だったのではないかと考えられています。化石自体は現在の群馬県神流町から見つかり、埼玉県側からは残念ながら恐竜の化石は発見されていません。もしかすると当時の埼玉県にもガリミムスのような恐竜がいたかもしれません。今回展示する標本は、骨の一つ一つがバラバラの状態で購入し、私の監修のもと姿勢を決め、組み立てました。実は着色も私が行っています。できうる限り矛盾が無いよう、組み上げたつもりです。当館オリジナルの組み上げ標本、ぜひ見に来てください。

第四紀の化石、堂々展示

現在の日本の生物たちは、大陸から日本に入ってきては絶滅することを繰り返すことによって成り立ってきました。それらの生物の中で生き残ったものが現在の生物相を形作っているのです。今まで当館には比較的最近の化石記録を展示するコーナーは無かったのですが、この度初めて数万年前から少し前まで生きていた生物たちの化石などを展示するコーナーを設置しました。このコーナーでは寄居町で発見されたナウマンゾウ化石のほか、昨年秋に秩父市大滝の洞穴内から発掘され、新聞報道もされた大型グマ、ニホンオオカミのものと考えられる歯などを展示。話題になった標本がいつでも見られます。埼玉にいた化石生物たちの証拠をぜひご覧ください。



「第四紀の化石」展示コーナー

テーマはゴージャス「秩父鉱山」

秩父鉱山に関する展示も一部変更しました。ガリミムスが常設展に加わる関係で、今まで展示していた展示ケースが置けなくなってしまう、秩父鉱山から産出した鉱物の一部をさげなくてはならなくなりました。そこで、洞窟のような秩父鉱山展示の展示ケースを一部改修し、展示標本も一新しました。この展示コーナーの見どころは何といても自然金です。新たに自然金のみを展示するケースを設けました。より見やすく、資料も見ごたえのあるものに変更された「秩父鉱山」説明等も増え、今までよりも足を止めてじっくり見てもらえる展示になりました。「秩父鉱山」の展示変更は井上素子主任学芸員と高橋美織学芸員が担当しました。



正面には新たに解説板を設置しました。



唯一背景を赤にした「金」展示

引き続き展示品の入れ替えを行っていく予定です。今後の展示にもご期待ください。

(きたがわ ひろみち：学芸員)